

修了証書は認定証を手に入れるための パスポート

認定看護師教育課程訪問看護学科修了式開催

2008年度の認定看護師教育課程訪問学科は日本訪問看護振興財団、聖路加看護大学、大分県立看護科学大学の3か所での開講となった。これまで3期、65名におよぶ訪問看護認定看護師が活躍しているが、2009年は5月7日の認定審査を経て、おそらく50人以上の訪問看護認定看護師が誕生することになり、訪問看護の質の向上と発展に期待が高まっている。

3か所のなかでも老舗ともいえる日本訪問看護振興財団では3月23日(月)、アイビーホール青学会館(東

京都渋谷区)において修了式が開催され、4期生25名が修了証書を授与された。

同財団理事長の清水嘉与子氏(佐藤美穂子氏(同財団常務理事)の代読)より「将来の訪問看護の発展のために、認定看護師としての役割を積極的に果たしてほしい」との言葉が、佐藤氏による課程長式辞では、公表された「訪問看護10か年戦略」に関して「力を合わせて10年の戦略を実現してほしい」「前例のない状況でも、信念をもって日々誠実に努力していくことにより、自らが前例となって訪問看護の活性化に取り組んでほしい」との言葉が、期待をこめて述べられた。

続いて、修了生一人ひとりが感謝の言葉とともに修了を迎えた思いを語った。「地域の力を上げていく」「着実に自分ができることからやっていく」「自分を見つめる半年間だった」「ネットワークを大切にして訪問看護に取り組んでいきたい」「弱み、強みを実感できた」「言語化することの難しさを学んだ」「落ち込んだのでもいい経験」「責任の大きさにつぶされそうだが、自ら学んでいくしかない」「訪問看護のよさを実践を通して伝えていきたい」など、言葉につまる修了生も少なからずおり、半年間の苦勞の大きさが推し量られた。最後に修了生代表として岩川圭子さんが、教員・仲間への感謝とともに、「学んだことを活かし、明日の訪問看護を支える認定看護師として貢献したい」と抱負を語った。



謝恩会で合唱を披露する修了生たち